

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人ふれんど		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	北海道苫小牧市明徳町4丁目4-17		
自己評価作成日	H26年6月16日	評価結果市町村受理日	H26年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでは、入居されている方の尊厳を守り、その人らしい生活を尊重することが基本となります。日常生活での潤いも大切です。これらのことを実施するためには、まず、職員一人ひとりが理解し資質を向上させていくことが重要と考え、当法人及び系列の医療法人とも連携し、職員教育に力を入れるようにしています。入居されている方に対しては、専門の講師による音楽療法及び軽体操を行い、日常生活に力を入れています。特に、音楽療法の効果は大きく、楽しみに参加される方も多く、日常でも皆で歌う機会が増えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0173600933-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年7月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのどか」は、社会法人ふれんどの運営する高齢者複合施設Ⅰ・Ⅱの、Ⅰの建物の一角に位置している。建物の周囲には庭が整備され、中庭もある。食堂スペースは天井が高くトップライトもあり明るく開放的である。居間と食堂スペースが分かれ、畳のコーナーもあり、くつろげる場所が豊富で温度や明るさが調整され快適な空間となっている。設備が整っており、トイレが広くて使い易く、窓のある広い浴室では温泉水を入れているので、気持ちよく入浴できる。医療法人が母体のグループ法人のため利用者・家族の医療面での安心感は強い。地域との交流が盛んで、複合施設内で「ふれあいサロン」が開催され幼稚園児とも交流できる。施設内のケアハウス出身の利用者が複数いるため、ケアハウスとの交流もあり、昨年からの市の委託事業である「ほっとカフェ」も開催されていることから、施設全体が地域交流の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(のどか1アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフ全員で作成し、スタッフルームに掲示し、毎日申し送り時に復唱し心に留めている。	事業所の開設時に職員全員で作成した「地域の人々とのふれあいを大切にする」の文言を含む4項目からなる理念があり、毎朝復唱し確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りやホームでの防災訓練に参加して下さったりと交流がある。また、近所の犬が散歩の途中に寄ってくれ、入居者と触れ合っている。	事業所を含む法人の複合施設内で「ふれあいサロン」が開催され、幼稚園児とも交流できる地域交流の場となっている。また、散歩の際は近所の方から声をかけてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがあり、小学校にて認知症についての寸劇を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で利用者の状況や生活の様子を話し、そこでの評価や意見はサービス向上に活かせるよう努めている。	2か月毎に運営推進会議が開催され、町内会長や民生委員、地域包括支援センター職員、家族等が参加し事業所の活動報告を中心に、その都度のテーマも話し合い、議事録を全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会には積極的に参加するように心がけている。また、運営推進会議には市の介護福祉課の方も参加しており、関係を築くようにしている。	昨年からの委託事業である「ほっとカフェ」を複合施設内で開催しており、市のグループホーム連絡会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開錠しており、身体拘束禁止の行為はスタッフ全員に周知されており、研修も受けている。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、法人主催の身体拘束廃止委員会も年4回開催している。日中は玄関は施錠せず、備え付けのセンサーで人の出入りを掌握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するファイルがあり、スタッフに周知している。また、研修会に参加し、ミーティングにおいても研修等行っている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	精神科を標榜する医療法人の系列法人であり、成年後見人制度に精通した職員がおり、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明、話し合い納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付ボックスを設置している。また、面会時などにご家族から意見をいただいたときは、運営会議やサービス向上委員会、ミーティングにて話し合いを行っている。	ほとんどの家族が毎月1～2回以上訪問するので、管理者が近況を報告し意見を聞いている。クリスマス会、夏祭り、敬老会などの大きな行事の場では、内容や意見等の家族アンケートを実施し、内容の充実に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや毎週の会議の中で聞く機会を設けている。	毎月の全体会議(ミーティング)には総合施設長も参加し職員の意見を聞いている。職員の意見を取り入れて業務日誌の簡素化やテーブルの高さの調整なども行っている。有給休暇も職員の意見を聞き調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度及び年2回の自己評価、人事考課制度を設けて、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修に行く機会を与えている。。また、職員教育として、初級、中級、上級研修の受講を義務づけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、協議会に出席し、他の施設の方たちと話し、サービスの向上に活かせるよう努めている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご家族や関係機関からの情報を中心に面談を行っている。また、入居の際には、本人と面談を行うようにし、本人の状況も把握するよう心がけている。また、入居したばかりの時は、特に普段の様子を詳細に記録し、アセスメントしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談において、ご家族が求めていること、希望されていることを確認し、話し合い、説明するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状態を見極め、本人にあった支援を考えるようにしている。必要に応じ、他部門への相談も含め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、教えてもらうことも多い。本人の気持ちを尊重しつつも、大家族のように支えあえるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話などで様子を伝え、相談しながら支えている。行事に参加された時なども話す機会がある。また、施設の生活の様子を記録したお便りを送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やなじみの人がなかなか面会など来られないときは、ご本人が電話をかけた時、行事を企画して来ていただくなど支援に努めている。	元近所に住んでいた方が訪ねてきたり、利用者が学生時代の友人と同窓会の催しで温泉に出かけるケースもある。複合施設内のケアハウスから入居した利用者は、現在も行き来し仲間と交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握して居場所を提供し、お互い関わり合い、支えあえるよう支援している。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までサービスが終了したケースは、長期入院や入院先で死亡したケースである。ご家族には、何かあったら相談に応じる旨伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は日常の会話や関わりの中で感じ取り、スタッフ間で検討し全員で把握している。	センター方式のシートを活用し、思いや意向を把握している。心身の情報について6か月毎に更新している。また、言葉での表出が困難な利用者には、表情や態度を見ながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報である程度把握しているが、入居後、ご本人との会話から新たな情報を得られることも多く、スタッフ間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、生活記録シートから、各自現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、カンファレンス、モニタリングなどからケアの在り方を検討し、家族とも話した上でケアプランを作成している。	介護計画は利用開始後2週間、1か月、3か月毎に見直し、その後は毎月モニタリングし、6か月毎に更新して利用者・家族から署名・捺印を得ているが、毎日の記録は特に介護計画を意識した記載方法となっていない。	毎日の記録である「生活記録シート」に、介護計画を意識した記載が行われるよう、工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、変化、行動を記入し、申し送りや連絡ノートで情報交換し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ一人ひとりに合った支援を心がけている。その状況に応じ、必要であれば出来る限り支援するよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や、ホームの周りを散歩したり、スタッフと買い物に出かけることがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重している。協力医療機関が系列法人のため、密接な連携をとっている。他医療機関とも情報交換を密にとっている。	協力医療機関以外の通院は家族対応だが、家族の希望により事業所でも対応している。協力医療機関の医師による「療養指導記録」を個人記録に綴り、家族に報告し、職員間で情報共有している。	

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職員がおり、気づいたことはすぐに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、経過や退院時期について、電話や面談で連絡を取り情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の在り方について説明し、施設で出来ること出来ないことを話し、同意して頂いている。	利用開始時に「重度化した場合における看取りに関する指針」を本人・家族に示して説明し、署名捺印を得ており、状況が変化した場合は医師も交えて説明や話し合いを行っている。現状では看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やミーティングなどで定期的に研修や訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行っている。町内会との協力体制も整っている。	法人全体で、毎年、夜間・昼間対応の避難訓練が各1回づつ行われており、「防災及び非常災害対応マニュアル」が整備され防火対策委員会も毎年開催されている。非常用備品も準備されているが定期的な救急救命訓練は行われていない。	全職員が定期的に救急救命訓練を受講することを期待したい。また、災害対応マニュアルを、事業所内に独自に備え付け、定期的に確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから言葉遣いや対応に注意している。ミーティングでも話している。	利用者への呼びかけは「さん」づけとし、法人の接遇研修や、勉強会で接遇を学んでいる。個人ファイルは事務所で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ、急がず、ゆっくり答えを待つようにしている。意思疎通の難しい方は、表情や動作からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、一人ひとりのペースを大切にしている。居室以外でも、食堂やリビングなど複数の居場所づくりを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は毎日好みのものを着ている。スタッフに関わる場合でも一緒に選んでいる。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けなどその人により出来ることは違うが、職員と一緒にやっている。	利用者の希望を反映した献立を作り、調理や盛り付け、配膳などを利用者が手伝っている。畑で取れた野菜も提供している。現在、職員は同じ食事は取っていないが、同じ食事とすることも検討中である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は一人ひとりの状態に合わせて、提供し摂取量も把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時には口腔清掃の声かけ、見守りをし、介助の必要な方には介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録に排泄を記入することで、一人ひとりのパターンが把握できており、それにより声かけや誘導している。サインのある方は行動をみて対応している。	利用者全員の生活記録シートに排泄状況を記録し、パターンを把握して必要に応じて誘導している。声かけの際は小声としたり、直接的な表現を避け、羞恥心に配慮している。日中はトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い運動を働きかけている。飲食物を工夫したり、水分摂取の声かけをして水分量をチェックし、予防につなげている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミング、曜日や時間についてはできるだけ希望に合うよう努めている。	概ね午後の時間帯で、各利用者は週2回以上の入浴をしており、希望があれば夜間の入浴も可能である。窓がある広い浴室で、湯船に温泉水を入れている。拒否がある場合も「温泉なので膝や腰が良くなりますよ」と言って誘っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングでご本人が過ごしやすいうように過ごしていただいている。居室で昼寝をする方もいる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員に周知している。服用後は変化がないか確認し、変化があった場合はすぐに看護職員に連絡し、診てもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食事の手伝いなど好きなことを手伝っていただいている。週2回の音楽療法は皆さんとても楽しみにしている。			

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか1)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化している方もおり、徐々に外出は難しくなってきたが、ご家族の協力で外出される方もいる。ホームでは年に数回バスで出かけている。	普段から近くの公園や法人の隣接施設内を散歩している。日用品や衣類の買い物など個別の外出支援も行っている。年間行事では、法人のバスを使って花見や紅葉狩り、回転ずし店への外食などに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいないが、以前所持していた方は、売店等で買い物をしていた。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたいときは、いつでもかけられるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中は、家庭のような雰囲気を出すためタイルカーペットを使用している。入居者の方が作った作品などを飾り、少しでも居心地良いよう工夫している。	建物周囲にきれいに庭が作られ、中庭も整備されている。食堂スペースは天井が高くトップライトもあり明るく開放的である。居間と食堂スペースが分かれ、畳のコーナーもあり、くつろげる場所が豊富で温度や明るさが調整され快適な空間となっている。設備が整っており、トイレも広くて使い易い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自分で好きな場所で過ごせるようリビング、和室、食堂など数か所の居場所を設置している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものを持ってきたり、好みのものを自由に置いている。造花や家族の写真を飾っている方もいる。	各居室は広めで、個々に洗面台が備えられ、窓から庭の緑を見ることができる。利用者はテレビや家具など馴染みのものを持ち込んでおり、壁にもカレンダーや家族の写真など自由に飾り付けしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースのほか、トイレにも手すりがあり、広く介助しやすくなっている。必要と思われるもの、危険と思われるものに対しては、その都度対応している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600933		
法人名	社会福祉法人ふれんど		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	北海道苫小牧市明德町4丁目4-17		
自己評価作成日	H26年6月16日	評価結果市町村受理日	H26年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「のどか1ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0173600933-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年7月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(のどか2アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフ全員で作り上げたものであり、年に4回理念について実践できているか検討している。また、毎朝復唱し、実践につなげられるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方が犬の散歩の帰りにホームへ立ち寄り、入居者との交流がある。また、町内会のふれあいサロンに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトがおり、近所の小学校へ外向き、劇を交えた講和を行った。また、認知症カフェにて相談等行っているスタッフもいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、利用者の状況、生活の様子等を話し、自己評価、外部評価についても報告している。評価や意見は、サービス向上に活かせるよう努力している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が毎回運営委推進会議に参加され、事業所の様子を伝え、関係を築くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、開場している。また、身体拘束禁止の行為は、スタッフ全員に周知され、講習会にて研修も受けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するファイルを部署に置き、浸透を図るとともに、研修会に参加したり、施設内研修を行っている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	精神科を標榜する医療法人の系列法人であり、成年後見人制度に精通した職員がおり、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に話し合い、納得していただけるよう努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付ボックスを設置している。また、面会時などにご家族から意見をいただいたときは、運営会議やサービス向上委員会、ミーティングにて話し合いを行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて意見を聴く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度及び人事考課制度を導入している。。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修に行く機会を与えている。。また、職員教育として、初級、中級、上級研修の受講を義務づけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や苫小牧グループホーム連絡会で行われている研修に参加している。また、同じ系列法人のグループホームとの交流を行っている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人やご家族と面談し、色々とお話を聞きその情報を元にケアプランを作成している。安心して生活していただけるよう見守り、関わりを持ち、他入居者とのコミュニケーションがとれるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族との面談をし、ご家族にはアセスメント表に記入して頂き、情報を得ている。困ったことや不安なことがあったらいつでも相談してほしい旨を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族と面談しケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は共に生活するものと考え、出来ることは行っていただいたり、一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子は面会時や電話にて話しており、支援について相談したり、時に手伝っていただいている。また、施設の活動を記載した「おたより」を送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のなじみの人はときどき面会にも来られており、昔からの関係が継続できている。また、ケアハウスから入居された方がなじみの関係を継続できるよう、プロムナードなどに行き、談話等出来るようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士それぞれ好きな場所で過ごし、お互い一緒に仕事をしたり、話をしたり、時に助けていることもある。他の入居者さんと関係を築くことが難しい方はスタッフが関わり孤立しないようにしている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去利用が終了したケースは、死亡や長期入院と再入居が難しいケースであり、ご本人がホームに戻ることは難しいが、ご家族には介護相談等についてはいつでも対応する旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向は、日常の会話や関わりの中でスタッフは感じ取っている。困難な方は、表情や態度で感じ取り、スタッフ間で検討し、把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に面談時話を聞き、書式に記載してもらっている。また、入居後面会時や日常の会話の中からも情報が集まるので、知りえた情報は職員間で周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、生活記録シートから、各自現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンス時にご家族とも話した上でケアの方向性を決め、ケアプラン作成を行っている。また、毎月全員のモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録シートや連絡ノートに気づきや工夫について記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子は申し送りや連絡のノート、業務中でも気づいたことは伝達するようにしており、柔軟な対応ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や、ホームの周りを散歩したり、スタッフと買い物に出かけることがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重している。協力医療機関が系列法人のため、密接な連携をとっている。他医療機関とも情報交換を密にとっている。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には気づいたらすぐ知らせるようにしている。ホームには看護職員がいるので、受診についての相談も行い、適切に支援できるよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、経過や退院時期について、電話や面談で連絡を取り情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成しており、ご家族に説明、同意を頂いている。また、協力医療機関と協力し支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やミーティングなどで定期的に研修や訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害訓練を行っており、入居者に協力してもらいながら避難のシミュレーションを実際に行っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については常に気をつけている。お互いに注意したり、指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを表せるような対応を心がけ、自己決定できるよう急がずに答えを待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切にし、希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日服装は本人と相談して決めたり、自分で支度できる人は、ご本人の好みのものを着ている。お化粧する方は毎日している。		

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮し、代替えを用意したり盛り付けや食器を工夫している。出来る方には準備の段階で参加して頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはスタッフが考えており、定期的に管理栄養士に見ていただいている。摂取量、水分量は一人ひとりに応じ対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時には口腔清掃の声かけ、見守りをし、介助の必要な方には介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するよう努め、時間をみて声かけ誘導を行っている。また、トイレのサインがある人はサインを見逃さないよう誘導を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因についてスタッフは理解しており、水分や食事にも気をつけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のタイミング、曜日や時間についてはできるだけ希望に合うよう努めている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングでご本人が過ごしやすいように過ごしていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用について職員に周知している。服用後は変化がないか確認し、変化があった場合はすぐに看護職員に連絡し、診てもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとり出来ることをみつけ、それぞれ役割を持って生活している。楽しく生活できるよう歌ったり、見たいテレビを観たり、ゲームなどをして生活している。			

グループホーム のどか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外散歩は行きたいときに行っている。また、年に数回皆でバスで外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お金を所持している方がおり、売店に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をしたいという希望があるときや寂しかったり、不安感があるときはいつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで雑音を立てないようにスタッフの声や足音、物音に気配りしている。温度・湿度計もリビング、居室に置き、季節に応じて調整している。光は自然光が適度に入るよう調節している。中庭に花を植えたり、スタッフが持ってきた花を観賞して楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂で気の合う方と一緒に過ごせるようにしている。入居者同士孤立気味の方は、スタッフが関わっている。一人になりたい時は、居室で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の状態にあった家具や好みのものを自由に置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。なじみのものや写真を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路に不要な障害物は置かず、共用スペースには手すりが付いており、見守りながら自力で歩行できるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム のどか

作成日：平成 26年 8月 21日

市町村受理日：平成 26年 9月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	毎日の記録がケアプランを意識した記載方法となっていない。	ケアプランを意識した記録の記載が行われるようになる。	毎日の記録を挟めているバインダーにケアプランを記載したものを挟み、常にケアプランを目にすることで、記載する際意識して記入できるようにする。また、ミーティングで記録の書き方の勉強をする。	3ヶ月
2	35	定期的な救急救命訓練が行われていない。	全スタッフが定期的に救急救命訓練を受講する。	市で行われている救命講習を受講する。	10ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。